



いま、バッテリー産業がアツい。 - バッテリー産業の未来 (1) -

経済産業省近畿経済産業局 次世代産業・情報政策課

関西バッテリーだより-DENCHY- 始動。

2050年のカーボンニュートラル実現に向けた様々な技術について、近年世界中で関心が高まっています。

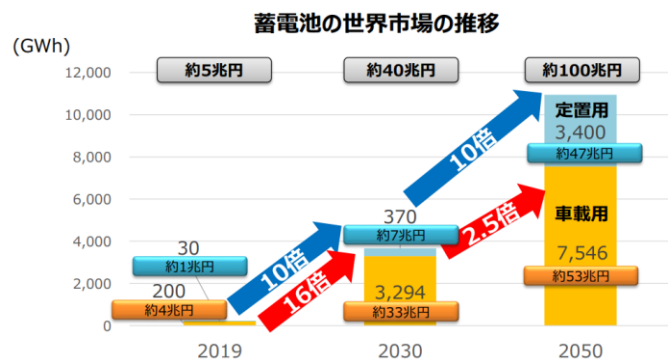
例えば電気自動車（BEV）やハイブリッド自動車（HEV）、プラグインハイブリッド車（PHV）、燃料電池自動車（FCV）等、あるいは太陽光、風力、地熱等の再生可能エネルギーを用いた発電について、最近よく耳にすることがあると思います。

他方、それらと比較して「蓄電池」「バッテリー」と聞いて、そのイメージがパッと頭に浮かぶ方は少ないかもしれません。加えて、実は関西エリアにバッテリーの関連企業が集積していることも、あまり知られていないのではないのでしょうか。

実は蓄電池（バッテリー）は、カーボンニュートラルを達成するための最重要技術のひとつであり、脱炭素社会においてイノベーションを支える重要な「縁の下の力持ち」なのです。

今後脱炭素社会の進展とともに更なる成長が見込まれるバッテリー産業について、未来を担う若い世代を含め、多くの方にその魅力を“やわらかく”お伝えしたいとの思いで、「関西バッテリーだより-DENCHY-」はスタートしました。

創刊号である今回は、バッテリー産業の市場の広がりや、その成長を支えるための経済産業省・近畿経済産業局の取組についてご紹介します。



(出典) 蓄電池産業戦略 (蓄電池産業戦略検討官民協議会, 2022年8月31日)

蓄電池産業戦略

冒頭でご紹介したとおり、今後脱炭素社会を目指す上で重要な社会インフラのひとつであるバッテリーは、今後世界中で市場の急速な拡大が見込まれます。

こうした状況を見据え、経済産業省は2022年8月に「蓄電池産業戦略」をとりまとめ、2030年までに現状の約7倍である国内150GWh（年間）のバッテリー製造能力を確保する等の目標を打ち出しました。これはEV約250万台分にも相当する、挑戦的な目標値です（※）。

この戦略では、バッテリー産業が目指す今後の方向性として「液体リチウムイオン電池の製造基盤の確立」「グローバルプレゼンスの確保」「次世代電池市場の獲得」の3つのターゲットを掲げています。



関西蓄電池人材育成等コンソーシアム
発足発表会（2022年8月31日）

関西蓄電池人材育成等コンソーシアム

「蓄電池産業戦略」が示す目標達成のためには、バッテリー業界で活躍する人材の育成・確保が重要です。

そこで、バッテリー関連産業が集積している関西地域において、近畿経済産業局、（一社）電池工業会（BAJ）、（一社）電池サプライチェーン協議会（BASC）が共同事務局となり、2022年8月、「関西蓄電池人材育成等コンソーシアム」が発足しました。

このコンソーシアムには、産業界や教育機関、自治体、支援機関等の46機関（令和6年7月1日時点）が参画しており、産学官が抱える人材育成・確保にかかる現状と課題を共有し、目指すべき人材像や、人材育成・確保につながる取組の具現化を目指しています。

取組例のひとつとして、令和5年度は高校生・高専生にバッテリー業界への興味関心を持ってもらうための教材コンテンツ（テキスト教材、動画教材、教員用の指導書、等）を作成しました。また、各種教材の効果検証のため、延べ505名の学生を対象に、デモ授業を実施しました。令和6年度からは高校生、高専生、大学生、社会人等へ向けた、バッテリー分野初の産学連携による教育プログラムを実施するとともに、実施校の拡大に向けた活動を推進する予定です。

本誌「DENCHY」では、バッテリー業界で活躍する企業の情報や社員の方々の声、バッテリー教育プログラムの実践風景等を順次お届けします。

「縁の下の力持ち」であるバッテリー。本誌では、そんなバッテリーの魅力を様々なゲストもお迎えしてお伝えします。バッテリーワールドにて皆さんをお待ちしています！

Messages

バッテリーはこれからの社会を支える重要なインフラであり、関西では製造・開発、人材育成と幾多の取組が進められています。

「DENCHY」では、バッテリーの魅力や可能性を多様な切り口から伝えますのでご期待ください！

経済産業省近畿経済産業局
次世代産業・情報政策課課長
土屋 貴史



（※）GWh（ギガワットアワー）：蓄電容量を表す単位。

【参考】「[蓄電システムまるわかりBOOK \(BAJ\)](#)」
1台当たり60kWhとして試算

【参考】「[EV等の電力システムにおける活用に関して \(2022.11.28 / 資源エネルギー庁\)](#)」